

工事完成書類等における活用実態調査



総合技術政策研究センター 建設システム課

施工管理技術係長 高野 佳明 課長補佐 市村 靖光 課長 山口 達也

(キーワード) 品質確保、施工管理、維持管理

3.

共通基盤の創造

1. はじめに

国土交通省直轄工事では、工事完成書類として、「平成22年度土木工事における受発注者の業務効率化の実施について」¹⁾の通知文に基づき図-1に示すように契約関係書類、工事打合せ簿や品質出来形管理・工事写真等の工事書類、工事完成図などがあり、工事完成後に発注者へ提出(提示)され保管されている。これらの工事完成書類が、維持管理段階においてどのように活用され、長期的にどのような工事情報を残していく必要があるかなどについて、関東地方整備局管内河川及び道路系事務所(10事務所)の工事発注担当者、工事監督担当者、維持管理担当者それぞれにヒアリング調査を実施したものであり、その結果について報告する。

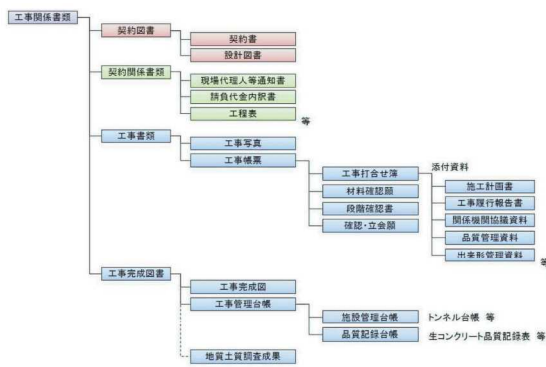


図-1 工事関係書類の体系

2. 調査結果の概要について

維持管理段階を通常時と緊急時(異常時等)の二通りに分けて、工事完成書類の活用状況をヒアリングした。

その結果、通常時と緊急時ともに工事完成図、出来形管理資料、品質管理資料、施工写真などを主に活用していた。

また、通常時の維持管理では、許認可申請や施設

の点検・補修などの際に工事完成時と現況の変状確認として活用されており、緊急時の維持管理では、災害等申請時や被災或いは粗雑工事などの原因究明に活用されていた。特に不可視部などについては、施工時の状況写真や使用材料の品質管理などの情報が重要であるとの意見があった。

また、維持管理以外にも、次発注工事の設計・積算などの参考資料として活用していた。

3. おわりに

今回の調査結果を踏まえ、長期保存されている工事完成図以外に、出来形・品質管理資料や施工写真など工事目的物によっては重要な情報が含まれており、情報量としては膨大であることがわかった。

今後、増大する施設の維持管理段階において、利便性などを含め、図-2に示すようなデータベース(「CALS/EC-電子納品保管管理システム」²⁾)の充実を図るなどの検討を行っていく予定である。

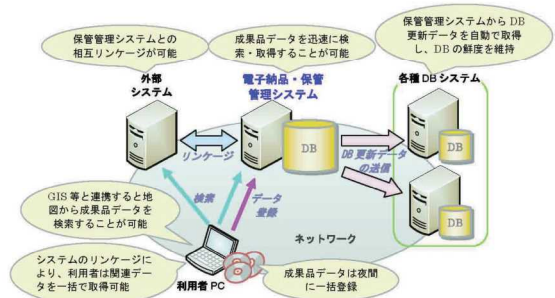


図-2 電子納品・保管管理システムの利用イメージ

【参考】

- 1) 平成22年度土木工事における受発注者の業務効率化の実施について(国土交通省「技術調査関係」)
<http://www.mlit.go.jp/tec/sekisan/sekou/pdf/220929H22kouritsuka04.pdf>
- 2) CALS/EC-電子納品保管管理システム(国土交通省「技術調査関係」)
<http://www.mlit.go.jp/tec/it/cals/arcsys/dl/gaiyo.pdf>